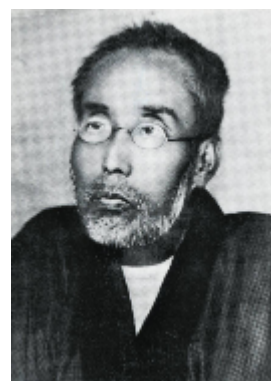


中江兆民 (なかえ・ちょうみん) 1847~1901

自由民権思想家 ~東洋のルソー~

出生 弘化4年11月1日(1847)、土佐国高知城下山田町(現・高知市はりまや町)に土佐藩足輕の長男として生まれる。誕生日・誕生地には異説がある。父元助は江戸の藩邸詰であったため、弟虎馬とともに母柳一人に育てられた。幼名竹馬、のち篤助・篤介。兆民は号で、他に秋水・木強生などを用いた。**履歴** 藩校致道館に学び、藩の留学生として長崎、江戸でフランス学を学ぶ。外国留学を志し、司法省派遣留学生となり渡仏(1871~1874)。帰国後、仏学塾を開学(1874)。その後、東京外国語学校の校長に任ぜられるが(1875)約3ヵ月で辞任、元老院権少書記官に転じた(1875~1877)。また、西園寺公望主宰の『東洋自由新聞』の主筆(1881)、自由党機関紙『自由新聞』の社説掛(1882)、『東雲新聞』の主筆(1888~1889)など、多彩な言論活動を展開した。1890年、第1回衆議院議員総選挙に当選したが、翌年辞職。その前後には『立憲自由新聞』(のち『民権新聞』)、『自由平等経綸』の各主筆を勤める。1893年以降は様々な実業活動を行うが、いずれも成功しなかった。



事績 ルソーとフランスの共和主義の思想を紹介し、自由民権運動に大きな影響を与えた。ジャーナリストとしても活躍し、1880年代以降、旺盛な言論活動を展開したが、常に根底にあるものは自由民権の理念であった。門人には幸徳秋水がいる。晩年には自ら唱えた哲学「ナカエニスム」の骨格を『一年有半』『続一年有半』に記し、西田幾多郎や狩野亨吉に影響を与えた。

評価 自由民権思想家として、本質が革命的民主主義者か穏健な立憲君主主義者かに評価が分かれる。初期議会において政治活動を行ったが、政治家としては評価されていない。自由民権論者であると同時に、自らの哲学を展開した思想家であるという独自性については、多くの論者が評価している。

代表作

『民約訳解』 ルソー著『社会契約論』の第2巻第6章までを漢訳し、注解を付したものの。これによって「東洋のルソー」と称せられ、自由民権の思想と運動に大きな影響を与えた。全集1に収録。

『三酔人経綸問答』 軍閥主義的で大陸への侵略を説く豪傑の客と非武装主義の洋学紳士が、穏健な現実主義の南海先生と酒をくみかわしながら、日本の進路をめぐって問答する形式をとっている。中江兆民の鋭い政治分析と展望が記されており、近代日本思想史上でもユニークな問題性を含んだ重要文献とされている。全集8に収録。

『一年有半』『続一年有半』 1901年4月、医師から喉頭がんと診断され(死後、食道がんと判明)余命1年半との宣告を受けて執筆した随筆集。兆民の思想が最も顕著に表れているもので、名文名著と高く評価されている。正・続編ともに出版後、版を重ね、大ベストセラーとなった。全集10に収録。

キーワード

民権是れ至理也 『一年有半』の中の言葉。中江兆民の民権思想をよく表しており、彼の言論活動を支えた理念である。 ナカエニスム 『続一年有半』の中で唱えた独自の唯物論哲学。実証主義、自然科学主義批判を主要なモチーフとしている。

エピソード 中江兆民には多くの奇行が伝えられている。例えば、国会へ登院する時、どてらを着て行ったこと、真紅のトルコ帽をかぶり、「火の用心」と書いたタバコ入れを持ち歩いたことなどである。これらの行動は、現実社会のしきたりにこだわらず、形式を打ち破ろうとする中江兆民の独自性を表しているもので、名文家といわれる彼の独創的な文章と密接に結びついている。

神奈川 1867年、江戸で、フランス学の大家・村上英俊の塾・達理堂に入門したが、破門されたため、横浜に移り、横浜天主堂のカトリック僧にフランス語を学んだ。

最期 1901年(明治34)12月13日、食道がんのため、東京市小石川区武島町(現・文京区水道)の自宅で死去。享年54歳。

Great Works 04

中江兆民全集 全18巻 岩波書店 1983~1986 <081.8/106>

解題 明治期思想家の全集として、最高水準のものとして評価されており、中江兆民の研究を大きく進展させた。無著者名論説の本文は、独自の基準によって厳密に選別している。別巻には、中江兆民関係

の同時代記事も数多く収録している。

内容

- 1 民約論卷之二 [1874年 ルソー著『社会契約論』を仮名まじり体で翻訳したもの] 策論 [1875年~1877年 元老院時代に執筆した建言書。タイトルは全集収録のためにつけられたもの] 民約訳解卷之一、卷之二 [仏学塾出版局 1882年] 非開化論 [1883年 日本出版会社 ルソー著『学問芸術論』の翻訳]
- 2~3 維氏美学 上冊・下冊 [文部省編輯局 1883・1884年 フランスの文学者・政論家ヴェロン著『美学』の翻訳]
- 4~6 理学沿革史 1~3 [文部省編輯局 1886年 フランスの哲学者フィエー著『哲学史』の翻訳]
- 7 理学鉤玄 [集成社 1886年 西洋哲学の概論]
- 8 革命前法朗西二世紀事 [集成社 1887年 フランス革命の原因を解明した論考] 三酔人経綸問答 [集成社 1887年] 民主国ノ道德 [1887年 フランスの哲学者・政治家バルニ『民主政における道德』の抄訳]
- 9 道德学大原論 [一二三館 1894年 ショーベンハウエルの『倫理学の二つの根本問題』に収められた第二論文「道德の基礎について」のビュルドーによる仏訳本からの重訳]
- 10 平民の目さまし [文昌堂 1887年 国会とは何かを平易な問答形式で記述したもの] 国会論 [盛業館 1888年] 選挙人目さまし [東京金港堂 1890年 代議制度についての論考] 一年有半 [博文館 1901年] 続一年有半 [博文館 1901年]
- 11 新聞雑誌論説 1 [1878年から1889年7月までに新聞・雑誌に発表した署名入りの文章 124篇]
- 12 新聞雑誌論説 2 [1889年7月から1891年3月までに新聞・雑誌に発表した署名入りの文章 124篇]
- 13 新聞雑誌論説 3 [1891年4月から1900年12月までに新聞・雑誌に発表した署名入りの文章、発表紙誌不明の論説、草稿、合計 141篇]
- 14 新聞雑誌論説 4 (無署名) [1881年3月から1889年1月までに新聞・雑誌に発表した無署名論説 103篇]
- 15 新聞雑誌論説 5 (無署名) [1889年2月から1901年3月までに新聞・雑誌に発表した無署名論説 147篇]
- 16 書簡、題辞・揮毫および関係者書簡
- 17 雑纂 [中江兆民が執筆し、その作成に大きく関与したとみられる序・跋・奏文・論説・漢文・趣意書など 69篇]

別巻 中江兆民関係記事、年譜、翻訳作品加筆箇所総覧、中江兆民全集人名索引

参考文献 ~この人をもっと知るために~

< 図書 >

- 📖 中江兆民 (人物叢書 新装版) / 飛鳥井雅道著
吉川弘文館 1999年 274p <289.1HH / 3780> 資料番号 21187745
- 📖 中江兆民評伝 / 松永昌三著
岩波書店 1993年 520, 20p <289.1BB / 3212> 資料番号 20594875
- 📖 兆民とその時代 / 米原謙著
昭和堂 1989年 301p <121.9X / 174> 資料番号 20106712
- 📖 理学者兆民 / 宮村治雄著
みすず書房 1989年 234, 39p <289.1X / 2657> 資料番号 20059655
- 📖 中江兆民のフランス / 井田進也著
岩波書店 1987年 416, 75p <289.1W / 2510> 資料番号 12365086
- 📖 明治憲法成立史の研究 / 稲田正次著
有斐閣 1979年 302, 12p <323.3K / 19> 資料番号 10749786
- 📖 兆民先生・兆民先生行状記 (岩波文庫) / 幸徳秋水著
岩波書店 1960年 108p <128 / 1> 資料番号 12254371

< 図書(部分) >

- 📖 中江兆民における道德と政治 / 坂本多加雄著 (市場・道德・秩序)
創文社 1991年 p93 - 123 <311.21Z / 105> 資料番号 20351235
- 📖 中江兆民、中江兆民の学問と文章 / 小島祐馬著 (政論雑筆)
みすず書房 1974年 p87 - 144, p145 - 163 <310.4 / 131> 資料番号 10645059

< 雑誌論文 >

- 📖 一つの兆民像 日本における近代的世界観の形成 / 宮城公子著
日本史研究 (日本史研究会) 143 [1974.6] <Z210 / 506>
- 📖 父兆民の思い出 / 竹内千美著
図書 (岩波書店) 189 [1965.5] <Z023.05 / 6>